

XN-8000 シリーズ音響・振動計測ソフトウェア

解析データレコード保存手順書

初めに

説明の表記上の注意

- : メニューやツールバーから開くと、クリックしていく順を表わします。
- 〔 〕 : クリックして開かれたダイアログを表わします。
- 【 】 : ツールボタン・アイコンなどクリックするアイテムを表わします。
- ダイアログ : アイコンをクリックしたときに開かれる設定画面のことを表します。
- オブジェクト : ペーパーに表示されているグラフや画像、テキストのことを表します。
- プロパティ : グラフオブジェクトに関する設定画面（ダイアログ）を注目していただくため、ここでは特に〔グラフ〕プロパティと表しています。

概要

XN-8000 シリーズ音響・振動計測処理用ソフトウェアでの解析データをレコード保存する手順を説明します。測定の設定は終了しているものとします。各ダイアログの設定内容は例として参考にして下さい。

操作手順

操作のフローを下に示します。



1. レコードされる ch の指定

レコードされる ch は、コンフィグボード上にシステム構築された ch が保存されます。Ch1 のデータのみ保存する場合の、コンフィグボードを図 1 に示します。

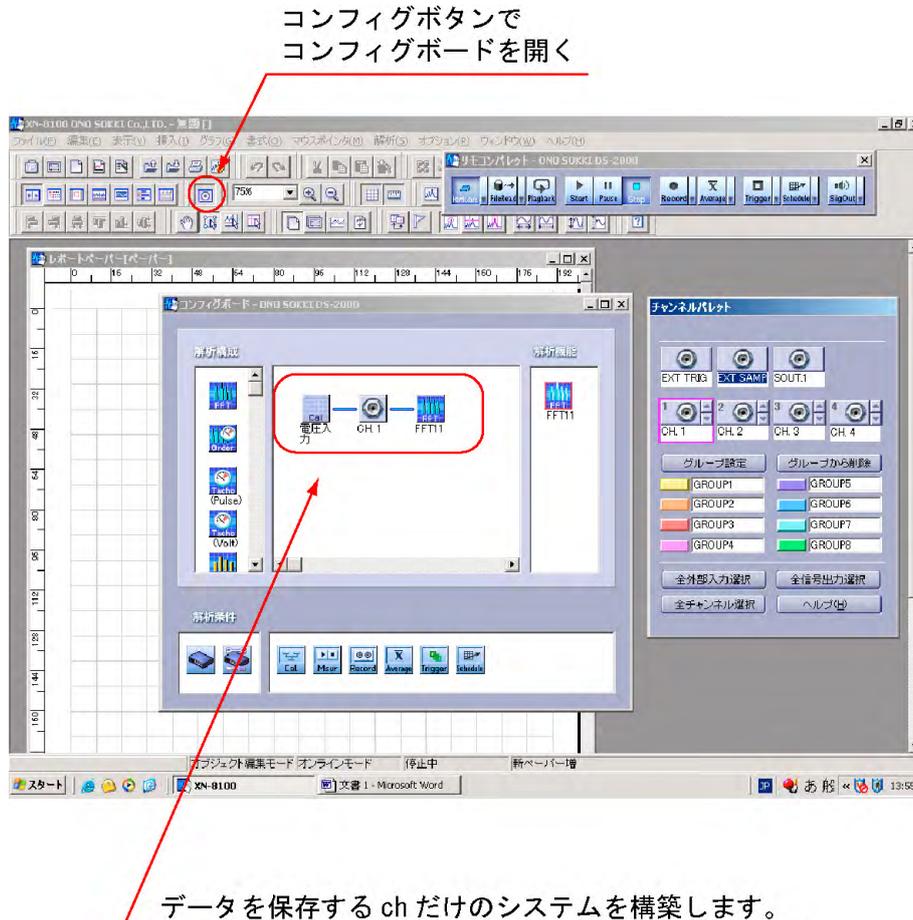


図 1

2. ハードウェアの設定

【HardWare】ボタンをクリックし〔ハードウェアの設定〕ダイアログを開きます。次のように設定し、OK ボタンをクリックします。

精度：24	AD 変換 bit 数です。
最大周波数レンジ：20kHz (51.2kHz)	FFT 最大周波数レンジ(サンプリング周波数) になります。

(注意)

FFT アイコンをクリックして開かれる〔ベースバンド FFT〕ダイアログで設定された周波数レンジは、サンプリング周波数ではありません。サンプリングされたデータを FFT 解析する周波数レンジになります。

[ベースバンド FFT] が開きます。 [ハードウェアの設定] を開き、最大周波数レンジを設定します。これがサンプル周波数になります。

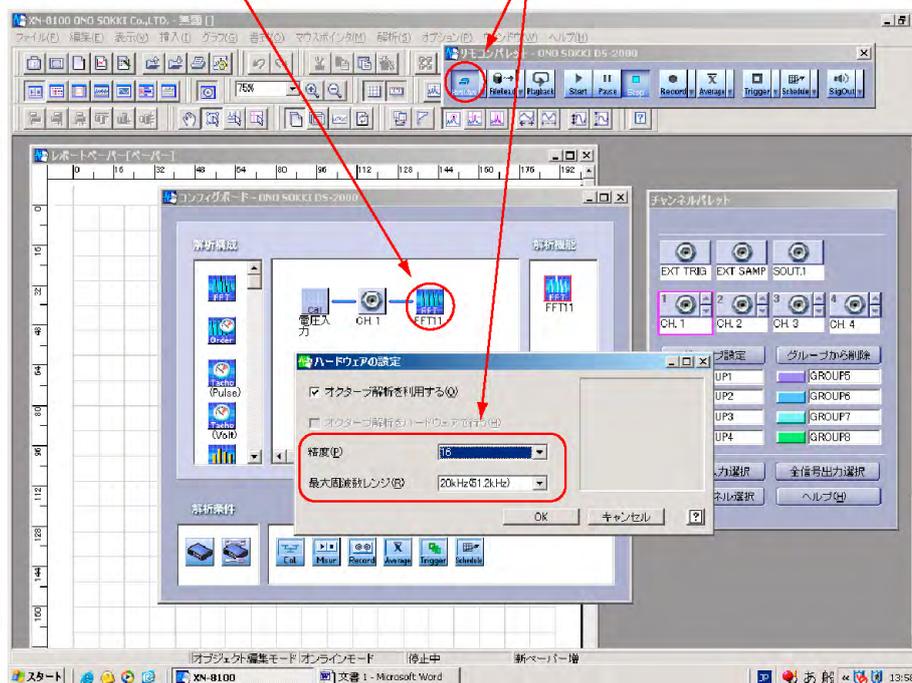


図 2

3. レコードダイアログの設定

【Record の】ボタンをクリックし、〔レコード〕ダイアログを開きます（図3）。
必要な項目にチェックを入れ、OK をクリックします。

「すべての解析機能を行う」をチェックしておく、解析しながら同時にレコードが可能です。
内容については Help を参照ください。

〔全ての解析機能を行う〕をチェックしておく
解析しながらレコードします。

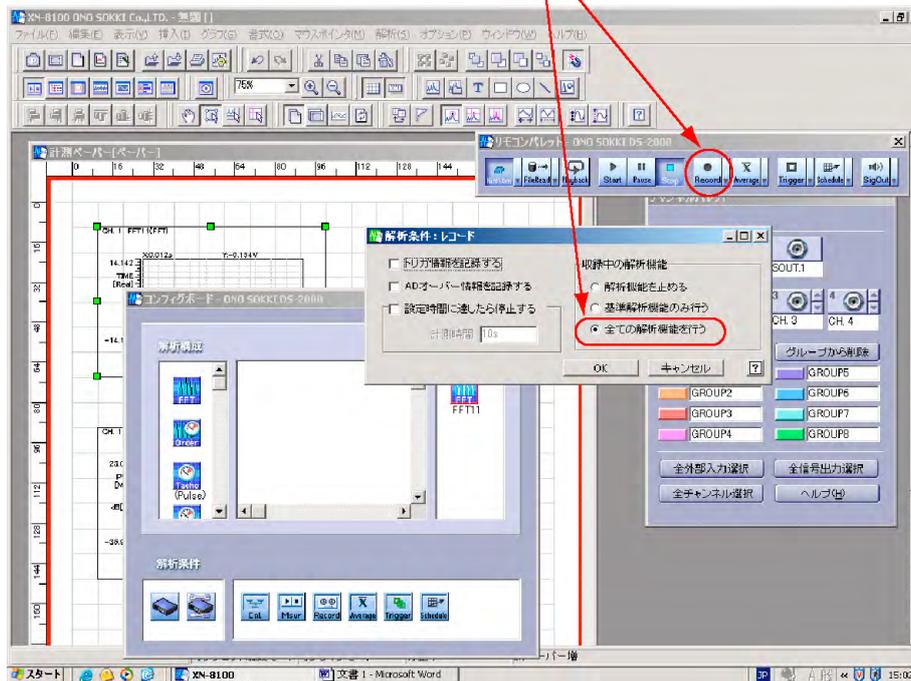


図3

4. レコードを開始

【X】 ボタンをクリックし、コンフィグボードを閉じます (図 3)。

【Record】 ボタンをクリックし on にします (図 4)。

【Start】 ボタンを on にします (図 4)。“Rec No. : Rec1 “ のレコードが開始されます

【Stop】 ボタンをクリックし (図 4)、レコードを停止します。Rec No. : Rec 2 に変わります。

【Start】 ボタンを押すと “Rec No. : Rec 2” のレコードが開始されます。

【Stop】 ボタンをクリックすると レコードを停止します。

必要な回数だけ ~ のレコードを行います。

Recrod ボタン on でレコード機能が有効になります。
レコード開始・終了は Start・Stop を操作します。
次の Rec No でレコードすると全ての Rec No. は
同じファイル名で保存されます。
Playback 再生のとき Rec No. を選択できます。

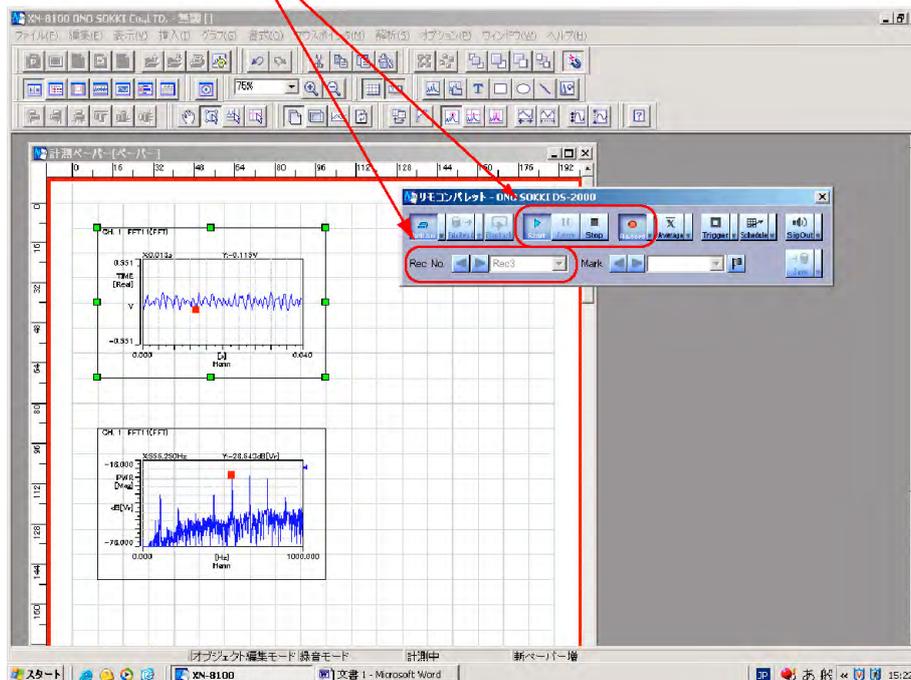


図 4

5. 波形ビューアでの確認

【Record】ボタンをクリックし off にします。

〔プレビューファイルの作成〕ダイアログが開かれますので、OK ボタンをクリックします。

Record ボタンを off にし「プレビューの作成」で OK をクリックします。

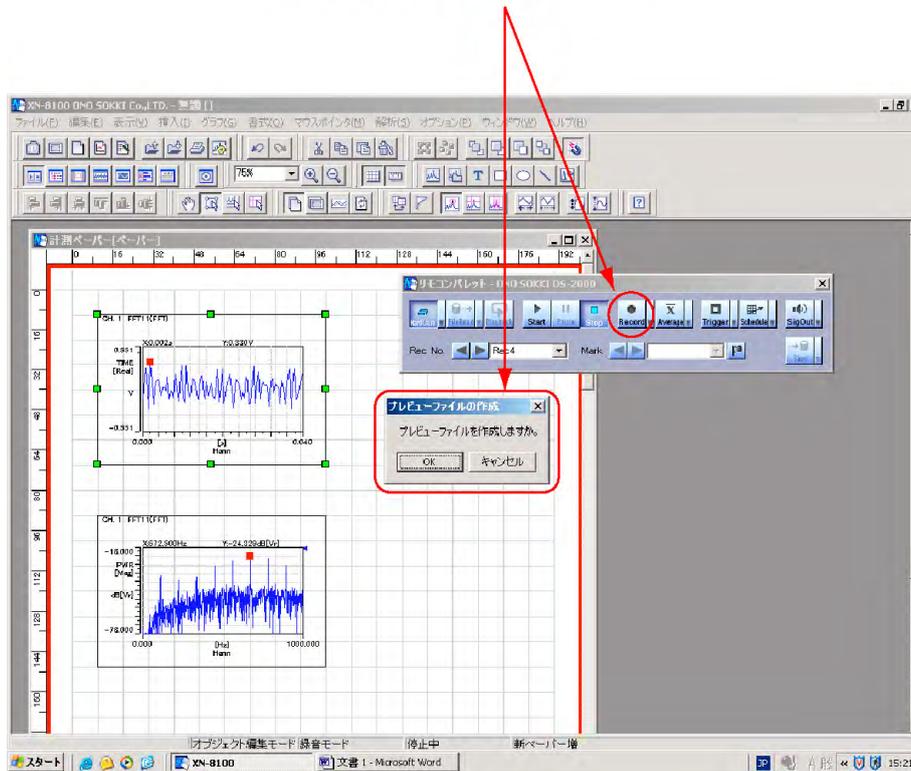


図 5

【波形ビューア】ボタンをクリックし、波形ビューアを開きます（図6）。
レコードされたデータ全体の様子が確認できます。

- 「Rec」で Rec No.が選択できます。
- X、Y 軸のスケールが変更できます。

【X】ボタンを押し、波形ビューアを閉じます。

波形ビューアを開いて、レコードされたデータを
確認します。Rec No. や X、Y 軸スケールが変更できます。

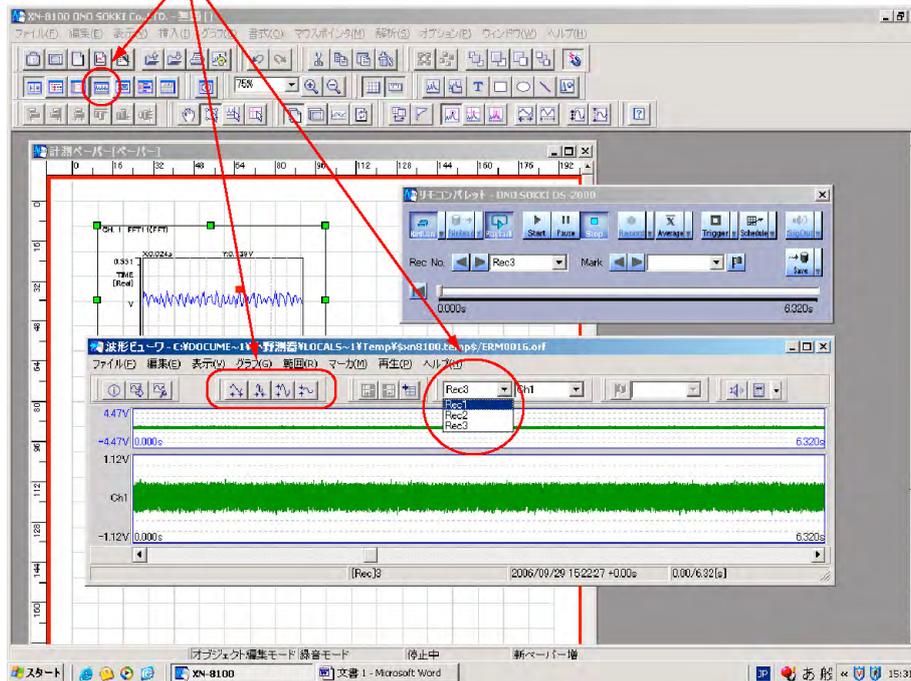


図 6

6. レコードの保存

【Save 右の】ボタンをクリックします(図7)。〔名前をつけて保存〕ダイアログでファイル名をつけて保存ボタンをクリックします。「.orf」の拡張子が付いて保存されます。

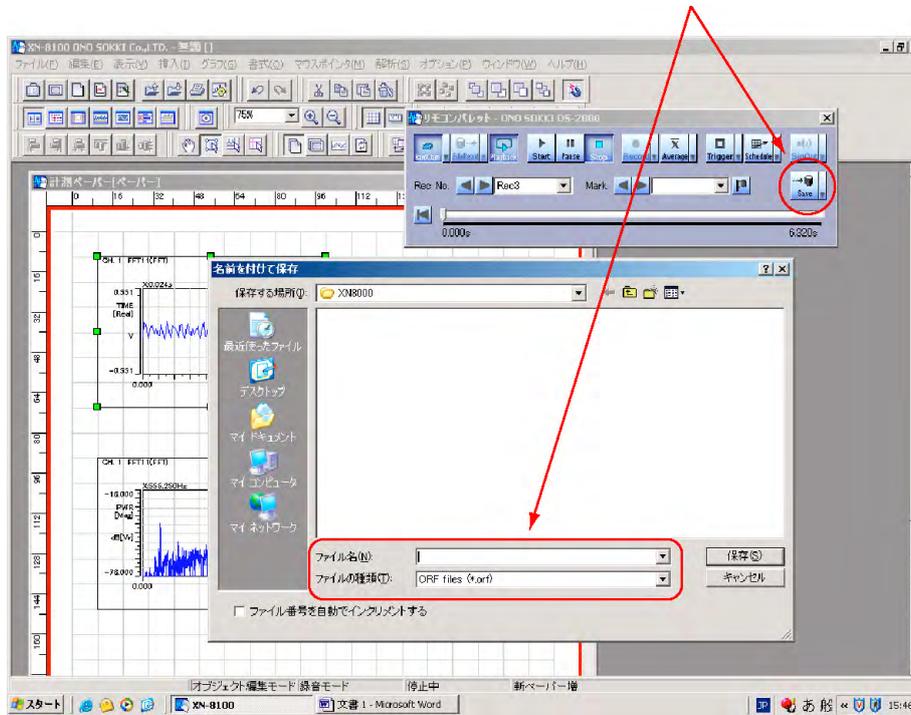


図 7

7. Playback と解析

- 【Record】ボタンを off すると、Playback ボタンが自動的に on されます。
- 【Start】ボタンを on すると、レコードされたデータが再生され解析が実行されます。
- 【Stop】ボタンをクリックすると解析は停止します。

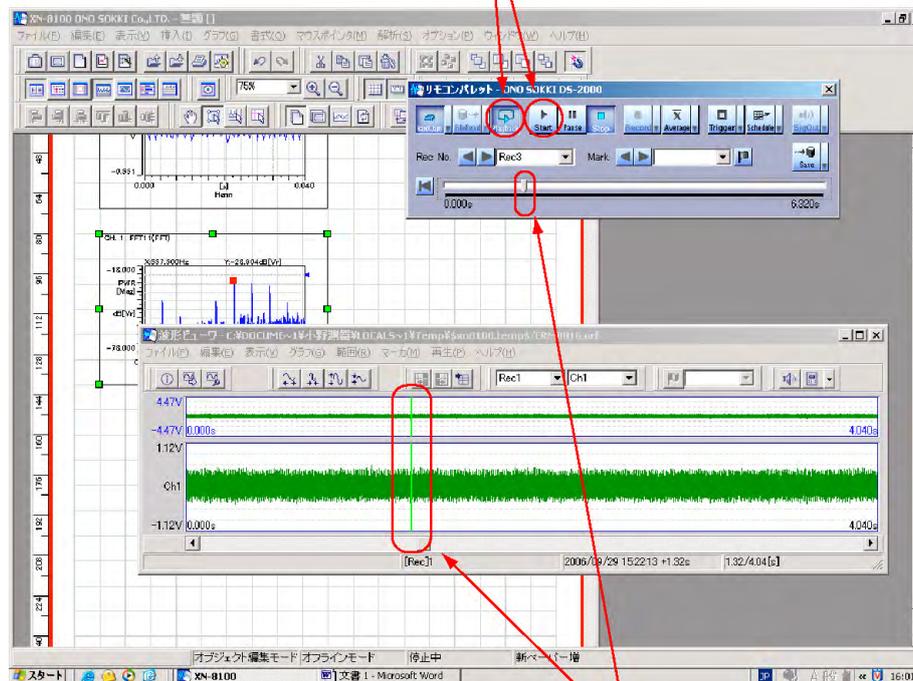
- “Rec No. : Rec1” を選択すると、Rec1 のデータで解析が実行されます。
- レコードされたデータのどの位置が再生されているか、波形ビューアなどで確認できます。
- 波形ビューアで「範囲」設定することで、その範囲に限定して解析できます。

詳しくは Help を参照ください。

(注意)

「コンフィグボード FFT アイコン [ベースバンド FFT] ダイアログ」で設定された周波数レンジで FFT 解析されます。

Playback ボタン on し、Start をクリックすると、レコードされたデータで解析します。



再生位置

図 8

(補足説明)

Playback は今レコードされたばかりのデータが解析対象になります。【FileRead】ボタンで読み出される「.orf」ファイルの解析とは異なりますのでご注意ください。

8. 新たにレコードするには

【Playback】ボタンをクリックし、off にします。
4～6 項の操作を繰り返します。
レコードの名前を前回と違う名前にして保存します。

9. レコードデータの再生 (オフライン解析)

「ファイル プロジェクトを開く」をクリックし、レコードした時のプロジェクトを開きます。
リモコンパレットの【FileRead の 】ボタンをクリックし、[ファイルを開く]ダイアログで、ファイル名を指定し開くボタンをクリックします。
【FileRead】ボタンを on します。
【start】ボタンを on して解析を開始します。
コンフィグボードや [グラフ] プロパティで解析・表示機能を追加変更が可能です。
(オンライン解析と同じ操作が可能です)